

新市建設計画（素案）

新 旧 対 照 表

平成 1 7 年 2 月

頁	行	釧路地域 4 市町合併協議会	釧路市・阿寒町・音別町合併協議会
1	13	こうした状況は、 <u>4</u> 市町においても同様であり、これらの内容を整理すると次のようになります。	こうした状況は、 <u>3</u> 市町においても同様であり、これらの内容を整理すると次のようになります。
1	19	<u>4</u> 市町の人口をみると、総人口は昭和 60 年の <u>240,202</u> 人から平成 12 年には <u>212,925</u> 人となり、この 15 年間に <u>27,277</u> 人の減少となっています。また、その内訳は昭和 60 年に総人口の <u>7.8</u> % だった 65 歳以上の高齢者が平成 12 年には <u>17.3</u> % に、昭和 60 年に <u>22.8</u> % だった 15 歳未満の年少人口が平成 12 年には <u>14.2</u> % となり、少子高齢化は年々急激な速さで進んでいます。	<u>3</u> 市町の人口をみると、総人口は昭和 60 年の <u>226,097</u> 人から平成 12 年には <u>201,566</u> 人となり、この 15 年間に <u>24,531</u> 人の減少となっています。また、その内訳は昭和 60 年に総人口の <u>7.6</u> % だった 65 歳以上の高齢者が平成 12 年には <u>16.9</u> % に、昭和 60 年に <u>22.9</u> % だった 15 歳未満の年少人口が平成 12 年には <u>14.1</u> % となり、少子高齢化は年々急激な速さで進んでいます。
3	12	現在は、情報通信ネットワークが張り巡らされ、道路網についても格段の整備が進み、通勤、通学や医療機関の利用等、住民行動圏域は大きく広がっており、 <u>4</u> 市町は、釧路市を中核として一体的な生活圏域を形成しています。	現在は、情報通信ネットワークが張り巡らされ、道路網についても格段の整備が進み、通勤、通学や医療機関の利用等、住民行動圏域は大きく広がっており、 <u>3</u> 市町は、釧路市を中核として一体的な生活圏域を形成しています。
3	18	<u>4</u> 市町は、恵まれた自然環境を活かし、農業(基幹産業である酪農)林業(道内有数の森林地帯)、水産業(日本有数の漁業基地)の第一次産業を主体として発展してきた地域です。国内でも有数の生産基地であり、また、日本の食料基地ともいえる地域でもあります。	<u>3</u> 市町は、恵まれた自然環境を活かし、農業(基幹産業である酪農)林業(道内有数の森林地帯)、水産業(日本有数の漁業基地)の第一次産業を主体として発展してきた地域です。国内でも有数の生産基地であり、また、日本の食料基地ともいえる地域でもあります。
3	27	<u>4</u> 市町の中には、釧路湿原、阿寒の 2 つの国立公園やマリモ、タンチョウ等、全国ブランドとして確立された地域の魅力あふれる資源がたくさんあります。しかしながら、ともすれば個々の地域だけの資源として捉えられる傾向が強く、地域全体の資源としてアピールすることに至っていない面があります。今後、新市の地域ブランドとして统一的に発信することができるようになれば、「自然豊かな癒しの地域」	<u>3</u> 市町の中には、釧路湿原、阿寒の 2 つの国立公園やマリモ、タンチョウ等、全国ブランドとして確立された地域の魅力あふれる資源がたくさんあります。しかしながら、ともすれば個々の地域だけの資源として捉えられる傾向が強く、地域全体の資源としてアピールすることに至っていない面があります。今後、新市の地域ブランドとして统一的に発信することができるようになれば、「自然豊かな癒しの地域」

頁	行	釧路地域 4 市町合併協議会	釧路市・阿寒町・音別町合併協議会
		という地域としてのイメージを大きく向上させることができるばかりでなく、これらの地域資源を活かした観光をはじめとする産業の活性化を図っていくことが可能となります。	という地域としてのイメージを大きく向上させることができるばかりでなく、これらの地域資源を活かした観光をはじめとする産業の活性化を図っていくことが可能となります。
5	4	本計画は、「市町村の合併の特例に関する法律」第 5 条に基づく法定計画として作成するもので、釧路市、阿寒町、 <u>白糖町</u> 及び音別町が合併した後の新市のまちづくりを進めていくための基本方針を定め、 <u>4</u> 市町の速やかな一体化を促進し、地域の均衡ある発展と住民福祉の向上を図るための方策を示すものです。	本計画は、「市町村の合併の特例に関する法律」第 5 条に基づく法定計画として作成するもので、釧路市、阿寒町_____及び音別町が合併した後の新市のまちづくりを進めていくための基本方針を定め、 <u>3</u> 市町の速やかな一体化を促進し、地域の均衡ある発展と住民福祉の向上を図るための方策を示すものです。
6	3	釧路市、阿寒町、 <u>白糖町</u> 及び音別町の <u>4</u> 市町は、北海道の東部に位置し、南側は太平洋に面しています。平野部には広大な釧路湿原、山岳部には阿寒国立公園を擁し、北海道の大自然を豊かに残す地域です。	釧路市、阿寒町_____及び音別町の <u>3</u> 市町は、北海道の東部に位置し、南側は太平洋に面しています。平野部には広大な釧路湿原、山岳部には阿寒国立公園を擁し、北海道の大自然を豊かに残す地域です。
6	6	図の表題 <u>4</u> 市町の位置 図の内容 釧路市 阿寒町 <u>白糖町</u> 音別町 を表示	図の表題 <u>3</u> 市町の位置 図の内容 釧路市 阿寒町 _____ 音別町 を表示
9	2	<u>4</u> 市町を合わせた総面積は <u>2,136.5</u> km ² となり、全国でも <u>1、2</u> の広い面積をもつ市となります。 <u>また、都道府県と比較しても、大阪府や香川県をしのぎ、ほぼ東京都に匹敵する面積をもつ市となります。</u>	<u>3</u> 市町を合わせた総面積は <u>1,362.75</u> km ² となり、全国でも <u>有数の</u> 広い面積をもつ市となります。_____
9	4	表の表題 <u>都道府県面積との比較</u> 表の内容 <u>4市町と都道府県面積との比較</u> を記載	表の表題 <u>市面積との比較</u> 表の内容 <u>3市町と市面積との比較</u> を記載
10	2	平成12年の国勢調査結果によると、 <u>4</u> 市町を合わせた総人口は <u>212,925</u> 人で、全道のおよそ <u>3.7</u> %となります。総人口は、昭和60	平成12年の国勢調査結果によると、 <u>3</u> 市町を合わせた総人口は <u>201,566</u> 人で、全道のおよそ <u>3.5</u> %となります。総人口は、昭和60

頁	行	釧路地域 4 市町合併協議会	釧路市・阿寒町・音別町合併協議会
		<p>年までは増加を続けてきましたが、それ以降は減少が続いており、昭和60年から平成12年の間に<u>27,277</u>人の減少がみられます。</p> <p>また、総世帯数は<u>88,178</u>世帯で増加を続けていますが、核家族化の進行等により1世帯当たりの人数は減少しています。</p> <p>年齢階層別の構成をみると、平成12年では、14歳以下の年少人口が<u>30,070</u>人で14.1%、15歳から64歳までの生産年齢人口が<u>146,182</u>人で<u>68.7</u>%、65歳以上の高齢者人口が<u>36,673</u>人で<u>17.2</u>%となっています。これまでの推移をみると、年少人口比率が減少し、高齢者人口比率が増加しており、少子高齢社会の到来を顕著に示す状況となっています。</p>	<p>年までは増加を続けてきましたが、それ以降は減少が続いており、昭和60年から平成12年の間に<u>24,531</u>人の減少がみられます。</p> <p>また、総世帯数は<u>83,845</u>世帯で増加を続けていますが、核家族化の進行等により1世帯当たりの人数は減少しています。</p> <p>年齢階層別の構成をみると、平成12年では、14歳以下の年少人口が<u>28,441</u>人で14.1%、15歳から64歳までの生産年齢人口が<u>139,010</u>人で<u>69.0</u>%、65歳以上の高齢者人口が<u>34,115</u>人で<u>16.9</u>%となっています。これまでの推移をみると、年少人口比率が減少し、高齢者人口比率が増加しており、少子高齢社会の到来を顕著に示す状況となっています。</p>
10	12	<p>表の内容 <u>4</u>市町の人口、世帯数等を記載</p>	<p>表の内容 <u>3</u>市町の人口、世帯数等を記載</p>
11	4	<p>平成7年及び平成12年の国勢調査結果に基づき、コーホート要因法による人口の将来推計を行った結果によると、<u>4</u>市町の総人口は、平成12年の<u>212,925</u>人から、平成27年には<u>195,317</u>人になることが想定されます。</p> <p>また、年齢階層別の構成をみると、出生率の低下や平均寿命の伸長により、高齢者人口及びその比率の増加が一層顕著となり、平成12年の<u>36,673</u>人（構成比<u>17.2</u>%）から、平成27年には<u>55,673</u>人（構成比<u>28.5</u>%）になることが想定されます。</p>	<p>平成7年及び平成12年の国勢調査結果に基づき、コーホート要因法による人口の将来推計を行った結果によると、<u>3</u>市町の総人口は、平成12年の<u>201,566</u>人から、平成27年には<u>185,800</u>人になることが想定されます。</p> <p>また、年齢階層別の構成をみると、出生率の低下や平均寿命の伸長により、高齢者人口及びその比率の増加が一層顕著となり、平成12年の<u>34,115</u>人（構成比<u>16.9</u>%）から、平成27年には<u>52,497</u>人（構成比<u>28.3</u>%）になることが想定されます。</p>
11	11	<p>今後さらに核家族化が進行することが見込まれることから、総世帯数は、平成12年の<u>88,178</u>世帯から、平成27年には<u>99,000</u>世帯に増加することが想定されます。また、1世帯当たり人数は、平成12年の<u>2.41</u>人から、平成27年には1.97人まで減少することが想</p>	<p>今後さらに核家族化が進行することが見込まれることから、総世帯数は、平成12年の<u>83,845</u>世帯から、平成27年には<u>94,176</u>世帯に増加することが想定されます。また、1世帯当たり人数は、平成12年の<u>2.40</u>人から、平成27年には1.97人まで減少することが想</p>

頁	行	釧路地域 4 市町合併協議会	釧路市・阿寒町・音別町合併協議会
11	14	定されます。 表の内容 <u>4</u> 市町の人口、世帯数等を記載	定されます。 表の内容 <u>3</u> 市町の人口、世帯数等を記載
12	5	新市においては、単に <u>4</u> 市町の積み上げだけではなく、新しい都市を創造していくという視点に立ち、地域の持つ優れた資源に立脚したまちづくりを進めていく必要があります。このため、住民も行政もこれまでの行政区域にとらわれることなく、地域全体の資源を十分に活かした新しい魅力と活力を創出する、まちづくりを目指します。	新市においては、単に <u>3</u> 市町の積み上げだけではなく、新しい都市を創造していくという視点に立ち、地域の持つ優れた資源に立脚したまちづくりを進めていく必要があります。このため、住民も行政もこれまでの行政区域にとらわれることなく、地域全体の資源を十分に活かした新しい魅力と活力を創出する、まちづくりを目指します。
14	2	<u>4</u> 市町をひとつの都市としてみると、これまで個別の市町では見出せなかった新しい都市としての特性・可能性を見出すことができます。その特性を活かし可能性を引き出すことで、地域の新たな発展と暮らしの安心、快適さを高めていくことができます。	<u>3</u> 市町をひとつの都市としてみると、これまで個別の市町では見出せなかった新しい都市としての特性・可能性を見出すことができます。その特性を活かし可能性を引き出すことで、地域の新たな発展と暮らしの安心、快適さを高めていくことができます。
14	6	新市は、総面積が <u>2,136.5</u> km ² となり、 <u>広さでは東京都に匹敵する</u> 広大な面積をもつ都市となります。そこには、多様な人々の暮らしと産業の営みがあります。広いステージでの新しいまちづくりは、新市の各分野で新たな価値や可能性を引き出すことができます。	新市は、総面積が <u>1,362.75</u> km ² となり、 <u>全国でも有数の</u> 広大な面積をもつ都市となります。そこには、多様な人々の暮らしと産業の営みがあります。広いステージでの新しいまちづくりは、新市の各分野で新たな価値や可能性を引き出すことができます。
14	10	新市は、総人口が <u>20万人を超え、特例市の要件を満たす</u> 道内でも有数の都市になります。さらに、生活、経済、交流などの面で圏域としての中心機能が高まることにより、「東北海道の拠点都市」としての役割がさらに期待できます。	新市は、総人口が <u>約20万人の</u> 道内でも有数の都市になります。さらに、生活、経済、交流などの面で圏域としての中心機能が高まることにより、「東北海道の拠点都市」としての役割がさらに期待できます。
19	10	<主な地域> 釧路市、 <u>白糠町</u>	<主な地域> 釧路市、 <u>音別町</u>

頁	行	釧路地域 4 市町合併協議会	釧路市・阿寒町・音別町合併協議会
19	12	阿寒、 <u>白糖</u> 、音別と河川の流域に広がる酪農地帯は【酪農ゾーン】として位置付け、自然との調和に配慮した酪農などの農業の振興を図るゾーンとします。 ＜主な地域＞阿寒町、 <u>白糖町</u> 、音別町	阿寒_____、音別と河川の流域に広がる酪農地帯は【酪農ゾーン】として位置付け、自然との調和に配慮した酪農などの農業の振興を図るゾーンとします。 ＜主な地域＞阿寒町_____、音別町
19	16	阿寒、 <u>白糖</u> 、音別のかつて大自然林であった山岳部は【森林ゾーン】として位置付け、森林の育成や保護の取り組みを行い、林業の振興を図るゾーンとします。 ＜主な地域＞阿寒町、 <u>白糖町</u> 、音別町	阿寒_____、音別のかつて大自然林であった山岳部は【森林ゾーン】として位置付け、森林の育成や保護の取り組みを行い、林業の振興を図るゾーンとします。 ＜主な地域＞阿寒町_____、音別町
19	23	＜主な地域＞釧路市、 <u>白糖町</u> 、音別町	＜主な地域＞釧路市_____、音別町
19	28	＜主な地域＞釧路市、阿寒町、 <u>白糖町</u> 、音別町	＜主な地域＞釧路市、阿寒町_____、音別町
20	1	図の内容 <u>4</u> 市町のゾーン別の整備方針を表示	図の内容 <u>3</u> 市町のゾーン別の整備方針を表示
25	6	<u>水産物冷凍・冷蔵・加工施設等の整備</u>	_____
33	15	<u>広域的レクリエーション施設の整備促進</u>	_____
38	10	<u>広域的レクリエーション施設の整備促進（再掲）（4）</u>	_____
38	26	<u>地すべり対策の促進</u>	_____
45	17	特例市（注1）への移行を目指すなど、自己決定権の拡大を進め、	行財政基盤の強化や行政能力の向上等により、

頁	行	釧路地域 4 市町合併協議会	釧路市・阿寒町・音別町合併協議会
		<p>地方分権時代の _____ 自立した自治体経営を確立します。</p> <p>また、合併後の長期的な財政状況の展望のもと、あらゆる分野にわたる経費の節減や自主財源の確保・拡充に努めるとともに、重要度や緊急度、優先度に応じた財源の重点配分に努め、限られた財源で最大の効果を上げられるよう計画的、効率的な財政運営を推進します。</p> <hr/> <p>_____</p> <hr/> <p>さらに、各地域における住民サービスの向上のため、 _____ _____ 地域住民の意見をまちづくりに反映させる仕組みづくりを進めます。</p>	<p>地方分権時代に対応した自立した自治体経営を確立します。</p> <p>また、合併後の長期的な財政状況の展望のもと、あらゆる分野にわたる経費の節減や自主財源の確保・拡充に努めるとともに、重要度や緊急度、優先度に応じた財源の重点配分に努め、限られた財源で最大の効果を上げられるよう計画的、効率的な財政運営を推進します。</p> <p>さらに、広大かつ飛び地を含むという新市の地理的特性を考慮し、(仮称)総合行政センターの設置や情報通信基盤の整備等により、新市の均衡ある発展を目指します。</p> <p>また、各地域における住民サービスの向上のため、(仮称)地域協議会の設置など地域住民の意見をまちづくりに反映させる仕組みづくりを進めます。</p>
47	12	<p>表中 水産業の振興 漁港及び漁港関連施設の整備促進</p>	<p>表中 _____</p>
47	17	<p>表中 広域的レクリエーション施設の整備促進</p>	<p>表中 _____</p>
47	24	<p>表中 地すべり対策の促進</p>	<p>表中 _____</p>
48	3	<p>小・中・高等学校や図書館などの教育施設をはじめ、福祉・文化・スポーツ施設などの各種公共施設の配置については、特に、総面積が 2,000 km²を超える広大な市という新市の特殊性 を考慮し、釧路港及び釧路空港、北海道横断自動車道、地域高規格道路、国・道道をはじめとする道路・交通基盤の整備動向や、光ファイバ網等の情報通信基盤の整備状況等を踏まえ、各地域の利便性のバランスが保たれるよう十分に配慮するものとします。</p>	<p>小・中・高等学校や図書館などの教育施設をはじめ、福祉・文化・スポーツ施設などの各種公共施設の配置については、特に、総面積が 1,362.75 km²となる広大かつ飛び地を含むという新市の地理的特性 を考慮し、釧路港及び釧路空港、北海道横断自動車道、地域高規格道路、国・道道をはじめとする道路・交通基盤の整備動向や、光ファイバ網等の情報通信基盤の整備状況等を踏まえ、各地域の利便性のバランスが保たれるよう十分に配慮するものとします。</p>